



青木 かのこ / 親和女子高等学校 (兵庫県)

キャッチフレーズ

オオカミ少年なんて言わせない！！

アイデアの説明

私の住んでいる神戸では、六甲山系がもろい花崗岩が多く、都市化した大地は水の浸み込みが遅く、急勾配なので長年水害と闘ってきた歴史があります。公共のギャラリーに水害の写真を展示してあつたりしますが、人々は素通りし、比較的頻繁に点滅する警告灯が点滅しても、河川敷でジョギングしている人、川遊びを楽しむ人の多くは安全な場所に避難することがありません。「またか。でもこの前も大丈夫だったし。」と増水の危険を知らせる警告灯をオオカミ少年のように思っています。ジョギングを趣味とする私の父もその一人で、私はプンプン怒りながら「そのときは静かでも、水が壁のような高さになって一気にやってくるのだよ！一瞬だよ！」と注意します。そこで思いついたのがこのアプリです。



大事でなくても積極的に避難することの価値を高め、忘れがちな災害への「恐怖心」と「避難行動」を文化として後世へ受け継ぐことができるアプリです。特徴と使用方法は以下の通りです。

アプリには位置情報、地方自治体や気象庁、過去の被害状況の情報が連結されます。河川敷などの警告灯が点滅したら、アプリ所有者は安全な場所に避難し、電信柱などには施された QR を読み込むことで避難が完了したと登録されます。登録後はあらかじめ選択したお気に入りのキャラクター（国民的アイドルや Youtuber など）から警告に従ったことを褒めてくれるリアクションがあり、その場所で過去にあった災害の映像や画像を一定時間見るように促されます。動画や画像で災害の恐怖を再認識すると「Bポイント（防災ポイント）」がもらえます。Bポイントは、協賛する企業が提供する防災グッズや非常食のサンプルと周辺の商店や防災用品を扱うお店で交換できます。景品の防災グッズや非常食は、いわゆる「推し活」の流れに便乗できるよう多くのジャンルの人気者に協力してもらいレアグッズを用意し、若年層にも積極的に避難行動に参加してもらえるように工夫します。